

# 安全なキャンプのために

## PART6

### ~野山の活動の安全~



社団法人 日本キャンプ協会

# 野山の活動中に起こるいろいろな事故

## 1 自然の中の遊びの危険

### 山の中の洞窟で中学生が中毒死

子どもたちが野外の遊び場所として、いつも使っていた防空壕跡の洞窟で、ダンボール等を燃やしたため一酸化炭素中毒になり、4人の中学生が死亡した。その洞窟は崖を約20メートル下がった竹やぶの中で、多くの大人は知らなかったが、子どもたちには秘密基地として人気のある遊び場であった。救助に駆けつけた消防隊が一酸化炭素の濃度を計測しようとしたところ、測定器の針はかなり危険な、250ppmの目盛りを超えた。この洞窟の入り口は幅1.4メートル、高さ0.9メートルで奥は10メートル以上の洞窟がいくつもつながっていた。

## 2 自然の中でうっかりミスの危険性

### ハイキングで道に迷って帰れない

千葉県で日帰りのハイキングに出かけていた中高年男女30人のグループが、道に迷い夜になっても連絡がとれなく山した。一行は道に迷ったため、山中で一夜を過ごし、焚き火をして寒さをしのいだ。県警や地元消防は300人態勢で捜索、翌日午前7時ごろ携帯電話が通じ無事がわかった。リーダーは「下見をしていなかったこと、分岐点を見誤ったことが原因。途中から携帯電話が通じなくなったことも予想外だった」と反省した。



## 3 天候や雨の危険性

### 川沿いの道で落石に遭い、死亡

2泊3日の予定で山村へキャンプに来ていた学校が、2日目が雨のため計画していた登山ができず、予定を変更して川沿いの林道をハイキング中、道のわきの崖が崩れて、直径20～30センチの石が約30個落ちてきた。この石にあたり、1人が死亡、5人が負傷した。

## 4 自然の中の動物の危険

### 鮎つりで山に入り、クマに襲われる

6月のある日の午後、人里近い山の中の溪流へ1人で鮎つりに来ていた男性が、体長約1メートルのツキノワグマに襲われた。左顔面をつめでひっかかれたり、左腕を噛まれたりするなどして約3週間のけが。クマはそのまま山へ逃げた。男性は下流で子グマ2頭を連れた母親と見られるクマを見つけた後、母親クマが襲ってきたという。山菜の豊富な時期にクマが人里近くに下りてくるのは珍しいという。



## 5 自然の中の昆虫の危険

### 野外で雨宿りした小屋でスズメバチに襲われる

1泊2日でキャンプ場へキャンプに来ていた3家族8人が昼食の準備中、急に雨が降り出したため近くにあった野外ステージに駆け込んだところ、突然ステージの天井部分に巣を作っていたハチの大群に襲われた。5人は手や足、頭などを1～10数箇所刺され、救急車で病院に運ばれ手当てを受けた。残る3人は無事だった。事故発生後駆除されたハチの巣は直径約40センチであった。現場付近で別のスズメバチの巣も発見された。

## 6 自然の中の植物や山菜の危険

### 山で採った毒キノコを食べて重体に

山菜取りに行った父親と7歳の女兒が、山で取ったキノコを持ち帰って夕食にゆでて食べたところ、翌朝から嘔吐、腹痛、下痢等の症状があらわれ、その後意識不明となった。この親子は別の親子に「このキノコは食べられる」と教えられたという。



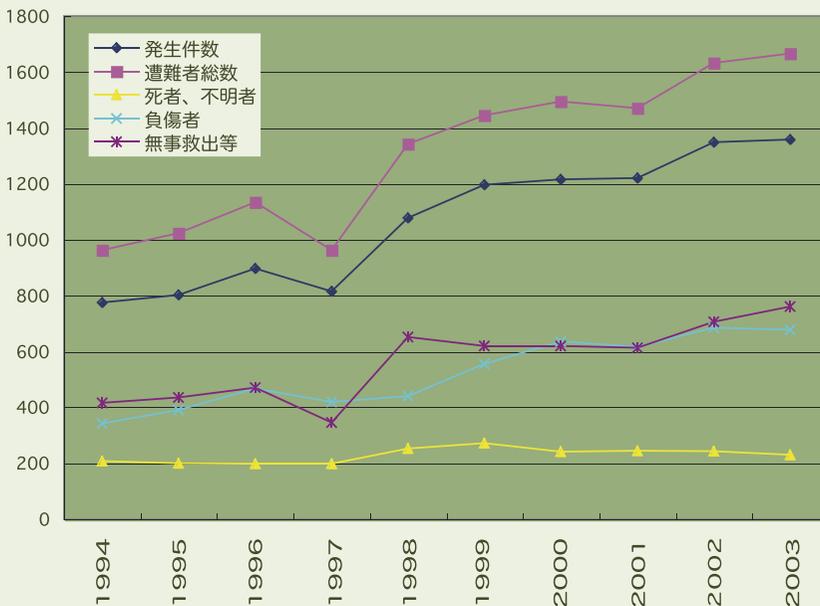
# 年々増加する山の事故

## 2003年の山の遭難事故、過去最多に！

2003年の山岳遭難事故は、発生件数1358件、遭難者数は1666人となり、いずれも1961年以来の最多となった。

- ☆ 遭難者が山に入った理由は登山目的が最も多く1175人（70%）、次が山菜取りキノコ取り370人（22%）であった。
- ☆ 登山の場合は、夏山シーズンの7～8月に事故が多く、山菜取りキノコ取りの場合は5月、6月、10月が多い。
- ☆ 遭難者の年齢は60～64歳が264人と最も多く、全体の78%にあたる1298人が40歳以上の人である。

## 過去10年間の山の遭難事故



警察庁データに見る事故の経年変化

\* 「不明者」とは行方不明者を示し、「無事救出等」には自力下山を含む。

2003年の遭難者のうち、死亡・行方不明者の数は230人で、1998年以降の6年間で最も少なかった。

# 計画・準備が事故を防ぐ

## [計画]のポイント

- 1 無理のない計画を**・・・自分の体力や能力に合った山やコースを選ぶ。  
コースタイムは余裕の時間を十分にとる。  
\*ガイドブックには休憩の時間の記載がないよ。
- 2 自然を楽しむ、山を楽しむ計画を**・・・高い山や、難しいコースだけが山の楽しさじゃない。里山歩き、自然散策もたのしいよ。
- 3 段階的な計画を**・・・一般コースから健脚コースへ、低山から高山へ、日帰りコースから宿泊コースへ徐々にレベルアップ。
- 4 山では早く出発し、早く目的地に着く計画を**・・・朝の出発は早目に、午後は3時頃には目的地に着くよう。
- 5 最悪の事態を考えた計画を**・・・雨が降り出した時、道に迷った時、けが人が出たとき等、最悪のケースを想定しておくで被害が少なくてすむ。



下り坂要注意  
山の事故の90%は下り坂で発生している

# 服装や用具が事故を防ぐ

野山の活動では、その活動にふさわしい服装や、その活動に必要な用具をそろえることで、事故を防ぐことができます。

## (1) 服装

- 活動（登山 ハイキング等）に合った靴
- 長袖シャツ Tシャツ
- 帽子 手袋
- 防寒着 セーター、フリース等
- 雨具（セパレートタイプ、ポンチョ等）

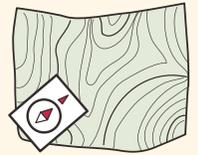


## (2) 行動用具

- ザック（目的に応じた大きさのもの） ザックカバーもあれば便利
- 水筒（ペットボトルでも代用できる）
- 地図とコンパス ○ホイッスル
- ヘッドランプと予備電池（懐中電灯でもいい）
- ナイフ ○ 時計 ○ 折りたたみ傘（あれば便利）
- 筆記用具（カメラもあれば便利） ○ ビニール袋



ザック



地図とコンパス

## (3) 生活用具

- タオル（洗面用具） ○ ティッシュペーパー
- ビニールシート（レスキューシート）
- 救急用具セット（16ページ参照）
- テーピングテープ ガムテープ（あれば便利）



水筒



ナイフ

## (4) その他

- 食料 ○ 非常食（カパソなど） ○ 身分証明書 保険証
- 携帯電話（場所・機種によっては使用不可）  
（簡易充電器があれば便利）



携帯電話



折りたたみ傘

装備の内容は、  
コースやメンバーの経験度によって変わってきます。

# 安全に野山を歩くために・・・

## 正しい歩き方で、楽しく疲れない山歩きを

### 歩き方の基本

山を歩くときは小股で、かかとをしっかりつけて歩くことがポイントです。  
かかとで歩くことによって、足底全体を地面につけることができます。

**登り道** ☆靴底を一步一步斜面にぴったりつけて歩くようにします。  
☆一定の歩幅で歩くと疲れにくいので、歩幅をうまく調整しながら自分のリズムを保つよう心がける。

**下り道** ☆歩くスピードを落として、ひざや足首に大きな負担がかからないよう、腰から下のクッションを使って、バランスを崩さないように歩く。

**岩場道** ☆岩場を歩くときは、足元をよく見て浮石に乗ったり、石を落とさないよう気をつける。石を落としたり落石を見たら、大きな声で下の人に知らせる。

**雪道** ☆よく踏まれた雪道は滑りやすいので、底に溝のあるしっかりした靴で踏み固めるように歩く。



## 山の道では原則として登りが優先

山の道でハイカーや登山者がすれ違うときは、原則として登りの人、登りのグループが優先です。下りの方は視界が広く全体を上から見渡せるのに比べ、登りの方は疲労も大きく視野が狭くなるためです。ただしこれは原則で、その場所の状況に応じて登りの方が退避したほうがよい場所では、この原則にこだわる必要はありません。

# 野山でバテない歩き方は？

(1) 急な所ではゆっくりと、  
なだらかな所は早めのペース分配で歩く

(2) できるだけマイペースを守って歩く

(3) 適切な休憩をとる 休憩をたくさんとっても疲れはとれない

(4) 水分、栄養補給を適切に バテる前に、計画的に、意識的に



## 休憩のとりかた

- ☆ 自分のペースに合った一定の間隔で休憩時間をとるとよい。  
たとえば「30分歩いて5～6分休む」「50分歩いて10分休む」
- ☆ 時間にとらわれず、自分の体力にあわせて「ちょっと疲れてきた」と感じた時点で休む。完全に疲れきったら疲労の回復が困難になる。
- ☆ 余裕のあるときは1～2分立ったまま休み、呼吸をととのえる。
- ☆ 疲れたときは、ザックを置き、靴紐をゆるめ、腰をおろして休む。
- ☆ 休憩時には水分とともにこまめに行動食をとる。



## 【水分補給】

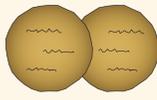
- ☆ のどが渇ききらないうちに、休憩ごとに少しずつ飲む。一度にたくさん飲みすぎると体がだるくなることがある。
- ☆ スポーツ飲料や温かい飲み物も、体力回復に役立つ。

## 【行動食】

- ☆ 山では、天候の急変や予定の遅れなどのため、短時間で簡単に食べられて、エネルギーが補給できる行動食品が必要です。
- ☆ 効率のよい行動食品としてチョコレート、ビスケット、干しぶドウあめ類、チーズ、サラミ等があります。



チョコレート



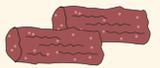
ビスケット



あめ



チーズ



サラミ

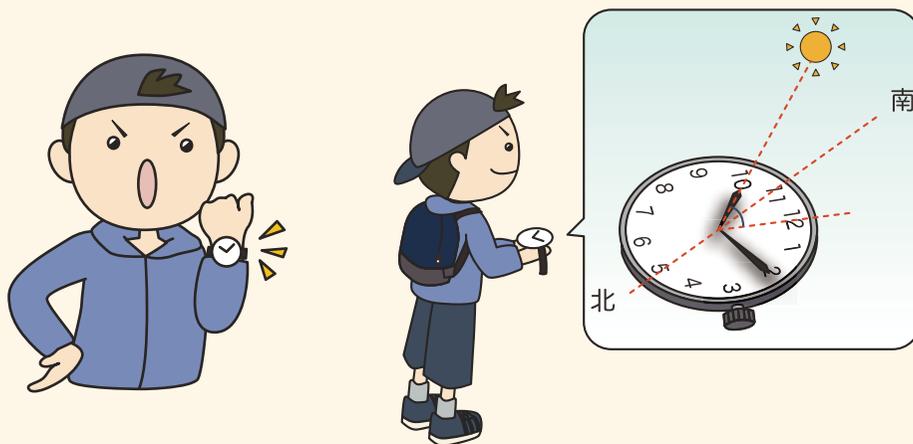
## 山の中で方角を知る方法

### 地図と磁石

磁石（コンパス）を使って（地図の北とコンパスの北をあわせて）現在地からの方角を知ることができる。

### 時計と太陽

時計を水平に持って太陽に短針を向ける。  
その短針と12時のなす角の2等分線の方向が南になる。

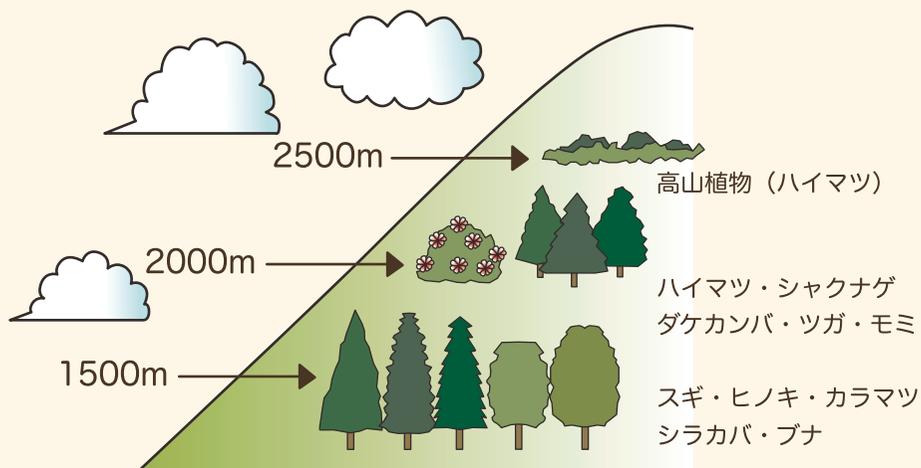


### 雲の動き

安定した天候のときは、上空の雲の動きが大抵北西ないしは西の方から移動してくる。

## 山の中で高度を知る方法

の中の植物の垂直分布で高さを知ることができる。



# 野山の事故はこんなときに起こる

## 1 道に迷った時

### ○ どんなときに迷うのか？

- ・ 標識のない分岐の多い道
- ・ 霧や雲で見通しが悪いとき
- ・ 積雪で道が隠れてしまったとき
- ・ 気持ちにあせりがあるとき

### ○ 迷ったらどうすればいいの？

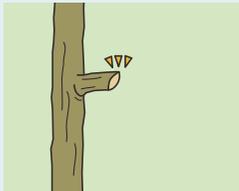
- ・ 来た道を引き返し、現在地が確認できるところまでもどる。
- ・ 尾根などの見通しの良い場所に出て、地図、磁石等で位置を推測して道を探す。
- ・ 絶対、谷筋に降りてはいけない。

### ○ 迷わないようにするためには

- ・ 常に地図、磁石を使って現在地を確認しながら歩く。
- ・ 標識や人の通った跡（人跡）を見つけながら歩く。
- ・ けもの道へ入り込まないように注意する。

## 人が通った道の印（人跡）

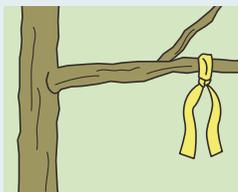
- ①木に残された刃物の跡
- ②ケルン
- ③枝につけられた布やテープ
- ④捨てられているゴミや空き缶
- ⑤足跡や靴の踏み跡



刃物の跡



ケルン



つけられたテープ



ゴミや空き缶



獣道は人の腰から上は藪だらけ



足跡や靴の踏み跡

## 2 天候が急変したとき

山ではよく天候が急変し、急に激しい雨が降り出したり、強い風が吹き出したりする。夏でも雨、風と疲労による体温低下から死にいたることがある。

### ○ 山の高さで気温・風速と体感温度

高度が100メートル増すと気温が0.6度ずつ下がり、風速が1メートル増すと体感温度は1度下がる。平地で30度の気温があっても、標高2000メートルの山頂では18度となり、山頂で5メートルの風が吹いていたら5度下がって13度となる。

### 【山頂の気温を考えて衣類や持ち物を判断する】

### ○ 雨による体感温度の低下

体が雨で濡れてしまうと、さらに体温が奪われ、体温がどんどん下がっていく。凍死は体温が32度以下になると、体の機能が維持できず死亡することだが、これは冬だけでなく夏でも気温、風、雨の状況で凍死は発生している。

### 【衣服は濡らさない、濡れた衣服はすぐ着替える】

### 《山の天気を知る方法》

#### 景色



西の空の夕焼けは「明日の晴れ」を表す

#### 動物の動き



早朝、クモの巣に水滴がついていれば「晴れ」



羽アリが多く発生すると「雨が近い」



東の空の朝焼けは「雨」の兆し

#### 植物のようす



竹の葉から露が落ちると「晴れ」



タンポポの花がしぼむと「雨」

### 3 雷が発生したとき

#### 《人が落雷を受けるのはこのような場所》

- 草原、平原、河原等の広く開けた場所
- 山頂、稜線、尾根等の高いところ
- テントの中
- 樹木の近く、森の中



テントの中は危険

#### 雷は高い所へ落ちる

#### 《落雷を避けるためには・・・》

- 窪地や低いところへ移動し、姿勢を低くする。
- テントポールや傘やストック等を、高く突き出した状態で立ったり移動するのは危険。
- 山小屋や建物の中、車の中へ避難する。



窪地などで姿勢を低くする



#### 大きな木の根元や、幹の近くは危険です

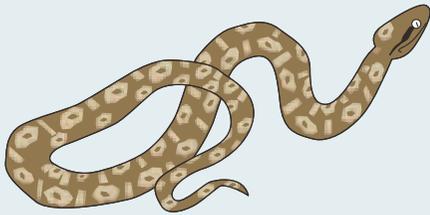
#### 《雷のことわざ》 「北西（または西）の雷は三束雨」

これは北西～西の方角で雷が聞こえると、稲を三束たばねる間に雷雨になるということです。雷鳴が聞こえる範囲は15～20キロメートル、雷雲の移動は時速20キロ程度で、北西～西の方向で雷鳴が聞こえると1時間以内に雨が降り出すこととなります。

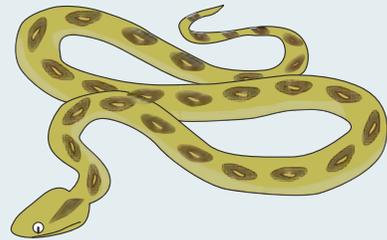
## 野山の危険な動植物、昆虫

(1) クマ・・・クマは、突然人と出会うとおそってきます。カウベルやラジオ、歌など音や声を出しながら歩くとクマが避けます。出合ったときは逃げないでクマの目を睨みながら、ゆっくりと後ずさりして距離を広げていきます。

(2) ヘビ・・・日本の野山では、マムシ、ヤマカガシ、ハブの3種類の毒ヘビがいます。ヘビは攻撃されたり踏まれたりすると襲ってきます。ヘビのいそうな所を歩くときは注意して音を出しながら歩くとヘビは逃げます。咬まれたときは、咬まれた部の心臓よりの箇所を三角巾等で強く縛り、医師にみせます。

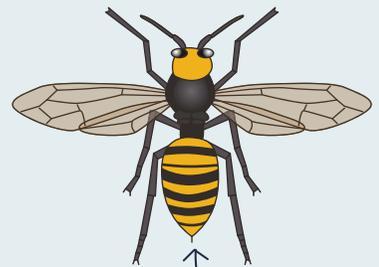


ニホンマムシ



ハブ

(3) スズメバチ・・・スズメバチは人が手を出すか、不用意に巣に接近しないかぎり襲ってきません。刺された時は、流水で患部を洗い流しながら、毒を血液といっしょにしぼり出します。ポイズンリムーバー(毒吸い出し器)で吸い出すのも効果があります。



刺す

(4) ウルシ、ハゼ、ヌルテ・・・これらの木の樹液が皮膚につくと発疹、腫れ、痒み、水泡などの炎症が起きます。とにかく触れないこと、そのためにウルシの仲間を判別することが必要。かぶれたら患部をよく水で洗い流し、抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏を塗っておきます。



ヤマハゼ

# 野山のケガは応急処置が大切

救急車は山の中まで来てくれない  
基本はまず傷病者を安心させること

(1) 切り傷による出血 . . . 山の中で転倒したときや、ナイフや包丁による切り傷が多い。傷はきれいな水でゴミや泥を洗い流し、殺菌したガーゼや清潔なハンカチをあて、直接圧迫や間接圧迫で止血する。



[間接圧迫法]



[直接圧迫法]

感染予防用手袋を使用する

(2) 打撲・捻挫 . . . 山道ですべて転倒したり、下山時に足が疲れて段差を踏みはずしたときに発生する。どちらも腫れと内出血が生じるので、患部を冷やすことと動かさないようにすること。捻挫のときは、三角巾やテーピングのテープで患部を固定する。冷やすのは川の水や沢の水でもよいし、クールパック等用意しておけばよい。

外傷の処置は【RICEの法則】

Rest (安静)

Ice (冷却)

Compression (圧迫)

Elevation (挙上)

(3) 靴擦れ . . . 靴擦れの予防には、はきなれた靴を履くこと、靴擦れしそうなときは、靴の皮膚のあたる部分に石鹸やロウを塗って滑りやすくし、足には絆創膏を貼っておく。水泡ができてしまったら、患部をきれいに洗って、消毒した針で水泡に穴をあけ中の液を出し、跡を十分消毒して滅菌ガーゼで保護しておく。

**(4)熱中症**・・・日光の直射やそれ以外の高熱、多湿の作用によっておこる体の機能障害を熱中症という。  
熱中症には2つの症状があります。

日射病・熱射病	熱疲労・熱けいれん
皮膚は熱く乾燥している 顔の色が赤い 汗はかいていない 体温は高い	皮膚は冷たくベトベトしている 顔の色は蒼白 汗をたくさんかいている 体温は平常
涼しいところへ移し、衣服をゆるめる 冷たいタオルか冷水で体や頭を冷やす	涼しいところへ移し、衣服をゆるめる 保温する

※防止のためには活動前・中に水分補給を心がけましょう。

**暑さで倒れたら、  
まず顔の色、皮膚の発汗状態や体温をみて処置をする**

**(5)日焼け**・・・日焼けは強い紫外線によって、皮膚がやけどを起こした状態です。紫外線の強いときは、衣服や日焼け止めクリーム等で予防し、軽度の症状には、冷たいタオル等で患部を冷やす。



**(6)高山病**・・・急に高い山に登ると、体が低酸素の状態に順応できず、血液中の酸素濃度が低下し、高山病になる。初期の症状は頭痛、めまい、食欲不振、吐き気、息切れ等で、進行すると息苦しさや顔や足のむくみが発生する。応急処置は安静な状態で保温をして、酸素消費を少なくし、市販の携帯用酸素等で酸素吸入する。



**【山には時間をかけてゆっくり登ろう】**

**(7)低体温症**・・・外気温の低下や風雨にさらされることによって、体温が36度以下に下がると、体の機能が低下し、意識障害が発生する。応急処置は、体温を奪う風から患者を保護し、濡れた衣服は乾燥したものに着替えさせ、毛布や寝袋等で全身を包み、徐々に体を温める。温かい飲み物をゆっくり飲ませるのも効果がある。

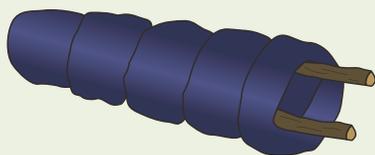
**(8)食中毒**・・・多くの人が入る野山の水源は汚染されていることが多い。キャンプ場でも水道水でないかぎり、生水は飲まないで煮沸する。気温の高い夏は食材の素材を腐りにくいものにして、保管に注意し、必ず火を入れた調理をする。食器の消毒、調理前の手洗い等も大切。

### 《患者の寝かせ方》

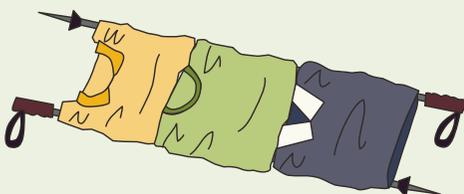
- 患者の楽な寝かた、座りかたを患者に聞いて、その姿勢をとらせる。
- 患者の意識に障害があるときは、呼吸がしやすい姿勢をとらせる。  
『気道確保の姿勢』
- 顔色が赤い時は、頭を高くして寝させる。
- 顔色が蒼白なときは、下半身をあげて寝させる。

### 《患者の運び方》

その場にあるもので担架をつくる



シュラフと竹や木の棒を使って



ストックと衣類を使って

担架がない場合の運び方



## [My 救急箱] を作ろう

キャンプに出かけるとき 個人の持ち物として忘れがちなのが救急箱、けがや事故が起きてはじめてその必要性に気づくことも多いものです。活動の内容や自分の役割、自分の体質を考えた自分だけの救急箱を作ってみましょう。

### My 救急箱の中身 (●は個人で活動するときの持ち物)

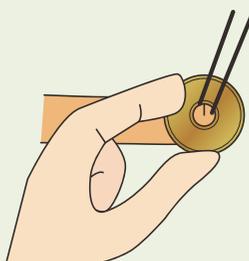
- 消毒液
- 救急ばんそうこう
- 滅菌ガーゼ
- 包帯 (伸縮性のもの、ネット状のもの)
- 三角巾 (できるだけ大きいものがいい)
- 虫刺され用軟膏
- とげ抜き・つめきり
- 体温計
- 目薬
- 湿布剤
- 風邪薬 解熱鎮痛剤
- 下痢止め
- ポイズンリムーバー (毒を吸い出すのに使う)
- 瞬間冷却パック
- 常備薬 (日常使っている薬)
- 保険証またはコピー
- 生理用品 (大きな傷の時、ガーゼの代わりに使う)
- ゴム手袋 (血液感染を防ぐため)
- 10円・100円硬貨 (公衆電話用)
- 5円玉 (とげ抜きに使う)
- 小型アーミーナイフ (毛抜き ハサミもよく使う)



アーミーナイフ



ポイズンリムーバー



5円玉を使うととげが抜きやすい



フィルムケースは機密性が高く使い道が多い

救急箱は念のために持っていくもので、重要なのですが頻繁に使うことはありません。そのため使わないうちに使用期限が切れてしまうことが多いので、常に新しいものを補充しましょう。

# 情報を集めて事故を防ぐ

## 1 天気の情報

- ・ 電話177番
- ・ 気象庁 [http://www.jma.go.jp/JMA\\_HP/jma.index.html](http://www.jma.go.jp/JMA_HP/jma.index.html)
- ・ NHK気象情報 <http://www.nhk.or.jp/weather/>
- ・ 日本気象協会 <http://tenki.jp/>
- ・ 雨量・雷観測情報（東京電力 <http://www0.thunder.ne.jp> 等各地の電力会社）

## 2 山岳情報

- ・ ヤマケイ山岳情報ライブラリー（TEL）0990-5-32300  
※ FAXで希望の山岳情報（主要山岳情報、山小屋情報）が取り出せる。  
※ 音声情報で山頂付近の気象情報が聞ける。  
[http://www.yamajikaze.net/tozan\\_lib4/tozanlib4\\_frame.htm](http://www.yamajikaze.net/tozan_lib4/tozanlib4_frame.htm)
- ・ 携帯電話サービス：ezweb公式サイト「ネイチャーワールド」（山と渓谷社提供）
- ・ 環境省自然保護事務所 <http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/>
- ・ 長野県警察山岳情報 <http://www.pref.nagano.jp/police/sangaku/sangaku.htm>
- ・ 山梨県警察本部山岳情報 <http://www.pref.yamanashi.jp/police/tiiki/tiiki.htm>

<各登山地の情報は以下へ問い合わせ>

- ・ 各都道府県庁 ※観光課、商工課、自然保護課などが窓口。
- ・ 各県警察本部生活安全部地域課 ※山岳救助隊を設置しているところがある。
- ・ 市町村役場 ※登山道や山小屋、麓の宿泊地、交通機関などの一般的な問い合わせは、各市町村役場の観光課へ。

## 3 山岳保険情報

- ・ 社団法人 日本山岳協会 <http://www.jma-sangaku.or.jp/>  
※山岳共済、各都道府県山岳連盟／関係省庁／警察署へのリンク
- ・ 日本勤労者山岳連盟 <http://www.jwaf.jp/> ※労山遭対基金

## 4 登山用具の情報

- ・ 全日本登山とスキー用品専門店協会 <http://www.ski-mountain.jp/>

## 5 山岳遭難事故情報

- ・ 警察庁 <http://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>

## 6 緊急連絡先・・・所轄の県警察または地元の警察署へ

# 野山の活動の安全チェックポイント

グループや団体で野山の活動をするときは、  
指導者は安全チェックを忘れずに・・・

## 1 事前のチェックポイント

- 当日のタイムスケジュールやリーダーの役割分担の確認
- 当日のコースの安全確認（必要に応じて下見する）
- 持って行く用具や準備物の確認（救急箱 参加者名簿 緊急連絡先名簿他）
- 天気予報の確認（予報によっては予定変更し、参加者に連絡も必要）
- 緊急事態発生時の対応の確認（けがの処置、搬送、病院手配等）

## 2 当日のチェックポイント

- 天気予報と実際の空模様を確認
  - ・ 雨天で決行する時は、コースの変更の検討、警報や注意報の有無を確認する。
- 参加メンバーの確認
  - ・ 参加メンバーの氏名だけでなく、健康状態や体調等も確認する。
- 活動中の安全を確認する
  - ・ 登山やハイキングの時は、リーダーは先頭と最後尾につき、他のリーダーはメンバーの中に分散して入る。
  - ・ メンバーの体力に合わせたペース配分、休憩を考える。
  - ・ 分岐点や危険な場所では、注意を徹底し、安全確保の処置をとる。
  - ・ 天候の変化に留意し、悪化が予想される時は早めに予定の変更等安全対策を考える。
  - ・ メンバーの疲労状態を観察し、疲労が目立つ時は早めに対応を考える。





NCAJ

National Camping Association of Japan

安全なキャンプのためにPart6 ～野山の活動の安全～

2005年7月17日発行

編集 社団法人日本キャンプ協会 安全管理委員会・冊子編集委員会

高見 彰 畠中 彬 野間口英敏 大橋光雄 佐藤初雄

長井せつ子 中村正雄 吉田大郎 藤井雅子

イラスト ほしのゆきこ

発行者 酒井哲雄

発行所 社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立青少年センター内

Tel. 03-3469-0217 Fax.03-3469-0504

Email: ncaj@camping.or.jp <http://www.camping.or.jp>

印刷 (有)サンエイプレス

Copyright(社)日本キャンプ協会 無断転載を禁ず